

実践報告

札幌市立伏見小学校

(1) 研究内容

研究課題：サップロピリカコタンを活用した学習の研究

○北海道の先住民族アイヌの人たちが築いてきた歴史や文化について、体験や見学を通して学び、自然を生かしたり、克服したりする知恵や工夫を明らかにし、現在の生活とのつながりを関係的な見方・考え方を働かせて捉える力を育む。

(2) 実践の内容

【実践①】アイヌ民族が築いてきた歴史や文化について、体験や見学を通して学ぶ
☆ねらい

アイヌ民族の歴史や文化を学び、自然と共に生活するという生き方について理解を深める。

●学習内容

ホールでの学習では、アイヌ民族の方のお話や実際に体験する活動をした。

～歌や踊り、遊びの紹介～

アイヌ民族が大切にしてきた歌や踊りを実際に見聞きし、体験もした。舞踊の内容や意味から、アイヌ民族が自然を大切にし、崇拝して「共生」という思いや願いを学んだ。



舞踊の紹介



楽器の紹介と歌謡の鑑賞

～遊びの体験～

アイヌ民族の自然を生かした遊びを体験し、楽しさや面白さを感じることで、アイヌ民族の昔の生活の知恵を学んだ。



屋内での遊び



屋外での遊び

【実践②】現在の生活とのつながりを関係的な見方・考え方を働かせて捉える

☆ねらい

アイヌ文化を象徴する「物」の見学を通して、アイヌ文化と自分たちの生活のつながりについて気づき、より実感の伴った理解を深める。

●学習内容

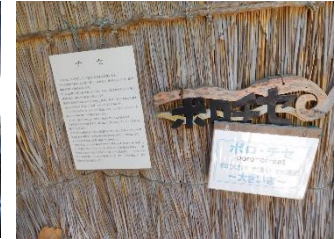
～生活道具の観察～

展示室における見学では、アイヌ民族が使っていた道具について説明と共に実物を観察し、自分たちの生活との共通点を見いだした。



～住居（チセ）の観察～

アイヌ民族の住居（チセ）やトイシなどを観察し、現在の暮らしとの共通点や相違点を考えることができた。



(3) 研究のまとめ

① 成果

子どもたちは、社会「昔から今へと続くまちづくり」における中単元「アイヌの人たちの生活と文化」の学習をした。教科書だけでなく、知里幸恵さんについてまとめたオリジナル資料を基に、その生涯を調べ、アイヌ民族の自然観や衣食住に関すること、さらにはアイヌ民族の苦難の道についても調べてきた。

その子どもたちにとって、今回のサップロピリカコタンを訪れての歌や踊り、遊びを体験したことは、先住民族アイヌの存在をさらに身近に感じる機会となった。

サップロピリカコタンでは、アイヌの方々（アイヌアートプロジェクトの皆様）を講師に体験プログラムを進めていただいたことで、体験だけで終わるのではなく、アイヌ民族の自然物に感謝して生活していたことや、自然と共生した生活をしていたことに感銘を受けた子が多くおり、自分たちの身の回りの物の使い方を考え直そうとする姿が見られた。

② 課題

- 午後の学習も控えていたため、文化に触れる時間が少なかったように感じる。実物に触れたり、体験したりすることの教育効果は絶大である。社会科としての時数配当時間が約4時間のため、総合的な学習の時間等と組み合わせることで、より教育効果が上がる学習にしていけるとよい。
- 3年生が使用している副読本に、アイヌ語に関する内容がある。3年生と4年生の学習の接続をしっかりとっておくと、教育効果がより大きいことが分かった。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- 社会科の学習だけで、人権教育のねらいを達成することは難しい。例えば、4年生の道徳「C 国際親善 国際理解」の学習に、他国の先住民族について考える教材がある。子どもが、アイヌ民族についての学習と関係付けて、人権について理解を深める姿が見られた。人権教育においては、総合的な学習の時間や外国語活動においても、異文化交流・異文化理解の取組が可能である。教育効果を最大限に引き出すためにも、各校でより一層、カリキュラムを工夫していくことが求められる。